「ふるさとの山に向かひて言ふことなし　ふるさとの山はありがたきかな」

これは、皆さんご存知の通り、石川啄木の短歌である。中学校の国語の教科書に載っていたこの短歌と私が再び出会ったのは、大学で音楽（声楽）を専攻していた時。この短歌を詩として平井康三郎が作曲した曲が、レッスンで課題となったのである。何度となく繰り返し歌う中で、この曲が自分の大好きな歌の一つとなった。

それから大学を卒業し、小学校の教員となって10年後、今から約20年前になるが、生まれ育った青梅の地から杉並へと転居した。それまで毎日、当たり前のように目にしていた奥多摩の山々が見られなくなり、とても悲しく、心細くなったのを覚えている。上井草の踏切で、拝島行きの電車を見つけては、「ああ、この電車に乗って戻りたいなあ。」と何度思ったことか…

それまで、自分がふるさとを意識することはほとんど無かった。大好きな歌も、歌って

いて気持ちがいいから好きだったのだ。しかし、この転居によって、本当に実感としてふるさとの大切さに気づくことができたのである。

そして一年前、世田谷区から昭島市の東小学校への異動が決まった。自宅は杉並のままだが、学校から市役所への出張の際、自転車をこぎながら、雪をかぶった美しい富士山や晴れ渡った青空に映える大岳の山頂を目にするたび、「いい景色だなあ。ふるさとに戻って来られて本当に良かった。」と一人喜びをかみしめている。

今回、公民館の運営審議会委員となったのを機に、私は小学校の長として、ふるさとに根付いた教育を展開し、そのふるさとをいつまでも大切にできる子どもたちを育てていきたいと決意を新たにしたところである。

公民館運営審議会委員　瀧島　啓司

公民館運営審議会活動報告

公民館運営審議会は、公民館における各種事業を調査・審議することなどを目的に毎月1回午後7時から開催しています。1月と2月の主な内容についてお知らせします。

◆1月11日（金）

都公連委員部会担当委員より2月3日に開催される東京都公民館研究大会担当分科会について説明がありました。

事務局からは、2月27日に開催される社会教育関係委員研修についての説明と、これから始まる事業及び終了した事業の報告がありました。

また、最後に公民館に関するビデオなどを視聴し、公民館の役割等について学習会を行いました。

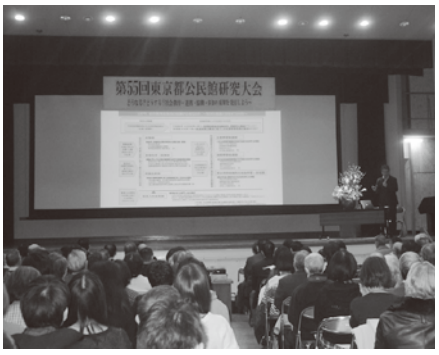
◆2月27日（水）

社会教育関係委員研修会が行われ、公民館運営審議会委員、社会教育委員、スポーツ推進委員、青少年委員の4者が参加しました。当日は今年度の幹事である青少年委員の指導のもと「畳のコースター作り」を体験しました。終了後は懇親会もあり、生涯学習推進のための連携を図る良い機会となりました。

第55回公民館研究大会

平成31年2月3日（日）三多摩11市の公民館で構成する東京都公民館連絡協議会主催による第55回公民館研究大会が東大和市立中央公民館等を会場として開催されました。当日は、非加盟市も含め約280名の市民・公民館運営審議会委員・職員が参加しました。近年、社会教育を取り巻く環境は、様々な要因から公民館制度開始当時の社会的課題とは大きく変容しています。

文部科学省は、平成30年秋に大幅な組織再編を行い、生涯学習政策局が総合教育政策局となり、社会教育課が、青少年教育課と統合され、地域学習推進課となりました。また、中央教育審議会は、文部科学省からの諮問を受け、公民館・図書館・博物館を教育委員会から市長部局へ移管することができることなどについて答申を出しました。

そのような中で、今年度は、東京三多摩地域からあらためて社会教育の今日的な意味を考える機会にしようと、「どうなる？どうする？社会教育～連携・協働・参加の成果を発信しよう～」をテーマに午前は、開会式と牧野篤さん（東京大学大学院教授）による基調講演が行われ、午後は、参加者が4つの課題別集会に分かれ、グループ討議などを行い活発な意見交換となりました。

なお、次回の研究大会は昭島市で2020年2月1日（土）に開催予定です。地元で行われますので社会教育について学びたい方は是非ご参加ください。